

活動報告書

報告者氏名: 青木佳浩

所属: 神戸市立須佐野中学校

記録日: 2015年2月27日

【対象生徒の情報】

- 学年 中学1年生の男子
- 障害名 知的障がい(自閉傾向がある)
- 障害と困難の内容
 - ・自分の思いを相手に伝えることが難しい。
 - ・できない、書けない、やりやたかなくと思うと机の下にもぐり、耳を塞いで泣く。
 - ・急な予定の変更があるとその場で小さくなり固まる。

【活動目的】

- 当初のねらい
 - ・自分の思いを伝えることが苦手で、困ってしまう場面が多いので、ipad アプリを活用することにより、苦手意識を軽減できるようにし、自分の思いを相手に分かりやすく伝えられるようにする。
 - ・自分の思いを伝えることで達成感を味わい、自尊感情が高められる学習活動を行う。
- 実施期間 平成26年6月～平成27年2月
- 実施者 青木佳浩
- 実施者と対象生徒の関係 特別支援学級担任

【活動内容と対象生徒の変化】

○対象生徒の事前の状況

対象生徒は小学6年間通常学級で過ごす。中学校から特別支援学級に入る。入学当初より書くことに苦手意識をもっていた。自分の思いを表現する感想文や作文などプリントが配布されると頭を抱えて、机の下にもぐって出てこなくなる。



※①困ると机の下にもぐる

○活動の具体的内容



「ロイロノート」を使った取組(6月～7月)

- ・対象生徒は正しく鉛筆を持たないため筆圧や曲線をコントロールすることが苦手である。スタイラスペンでの入力を試みるが、ペンと画面の接地面が正しくないと文字などが書けないことからイライラしていたので、ストレスを感じているようだった。イライラを軽減させるために指先入力ができるこのアプリを選んだ。
- ・1枚のカードに指先(手書き)入力ができるので、文字を書いたり絵を描いたり簡単にできる。音声入力もできるので思いを表現しやすい。
- ・カードを自由につなげることができ、順番を入れ替えることもできるので効果的に使える。※②

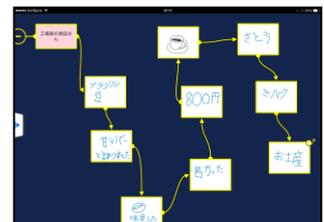
目的 校外学習や校内で行った体験学習をまとめる。

ねらい 伝えたい気持ち(意思)を引き出し、成功体験を積むことで達成感を味わう。

活動内容 指先入力や音声入力をして、カードをつなげていく。

成果 自発性の喚起と達成感を味わう

- ・音声入力では、見学の内容を意欲的に録音した。
- ・教科担任に積極的に「聞いて」と頼み、ほめてもらうことができた。
- ・伝えたいという気持ちを引き出すことができた。



※②カードをつなげてまとめる



「7notes」を使った取組(9月～12月)

- ・入力方法が多様。指先(手書き)入力、キーボード、指先(手書き)入力からの変換ができる。書くことが苦手で字が整わなくても、文字認識力が優れ、変換文字候補が多くでる。
- ・思いついたことを指先入力してから、後から変換という機能を使って文字変換ができる。
- ・ローカルにあるドキュメントでタイトル名が一覧できるので、どのファイルを使うのかが一目でわかる。
- ・フォントの大きさや色分けをすることで、視写がしやすい。

目的 ・体験活動をまとめて振り返りシートに視写する。

ねらい ・思っていることを入力し、文章にまとめ伝える。

活動内容 ・学習した内容を担任と一緒に入力する。

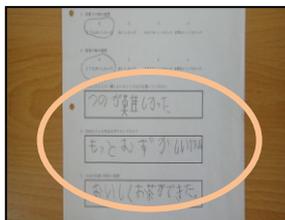
・視写しやすいように拡大・色分けをする。 ※③

成果 思っていることが分かりやすく、まとめることができるようになった。

- ・思っていることが分かりやすく表現することができた。
- ・文章を担任と一緒に確認することで苦手な漢字が分かった。
- ・入力した文章を視写し、分かりやすくまとめ伝えることができた。 ※④⑤



※③拡大・色分けする



※④を視写する



※⑤まとめる



「Book Creator」を使った取組(11月～12月)

- ・使い方の説明が見やすくレイアウトされており、ひとり人で読みながら操作を覚えた。
- ・スライドに文字入力や写真の挿入操作画面が大きい。
- ・フォントの大きさや色分け操作も分かりやすいので、レイアウトの調整が行いやすい。また、プロジェクターで投影しながらクラスメートと協働で、レイアウトを調整することができた。
- ・発表際に両手でiPadを持つと、ちょうど親指の位置でタッチすればスライド画面が変わるので操作しやすい。誤ってタッチしても、慌てずにすぐに元の画面に戻ることができるので安心して使えた。

目的 ・学習活動の発表スライドを作り、練習する。

ねらい ・自分の力でまとめたことを人に聞いてもらうことで、ほめてもらえる発表の場を作る。

活動内容 ・スライドに文字入力、写真の挿入をする。 ※⑥

・スライドの文字の大きさや絵の位置(レイアウト)を調整する。 ※⑦

・クラス内で発表練習を行い、相互評価をする。

成果 発表できたことが自信となり、自尊感情を高めることができた。

- ・発表できたことが自信となった。
- ・発表後に、発表の仕方や姿勢をクラスメートからほめられたことで自尊感情を高めることができた。 ※⑧



※⑥文章入力と写真挿入



※⑦レイアウトの調整



※⑧発表中の様子

○対象生徒の事後の変化

「書く」という作業について、二者選択(アプリ使用または直接書く)を行い取り組むことができるようになった。アプリを使う場合は、入力する分量を決めて、文章を保存し、文章が完成してからプリント等に視写する。

社会科の時間でパソコンを使って世界の国々の調べたことや国語の時間に自分のよいところを発表する場面では前向きに取り組むことができるようになった。また、講師を招いた特別授業の進行係を積極的に行った。

【報告者の気づきとエビデンス】

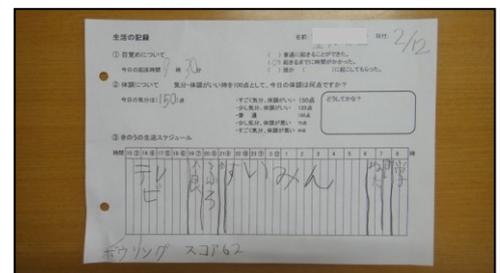
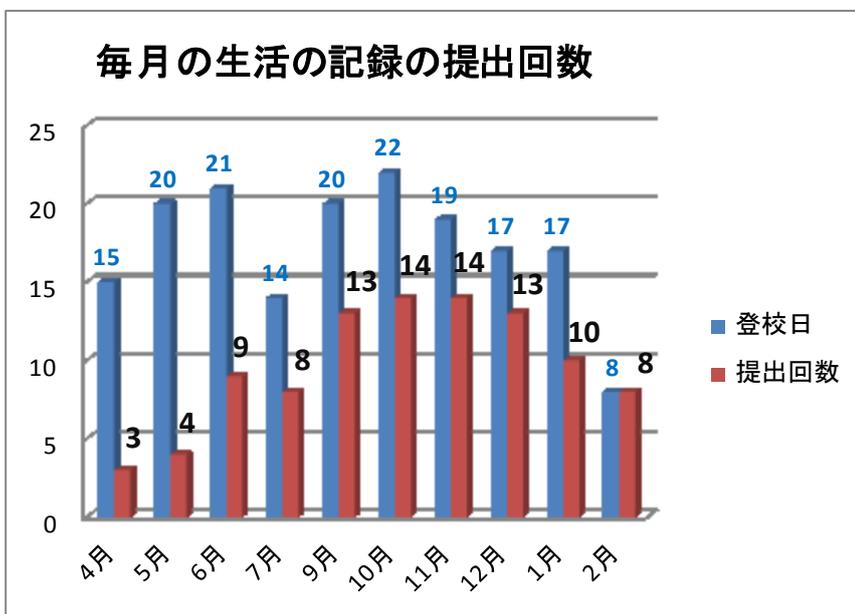
○主観的気づき

- ・iPadアプリを使って感想や考えを自ら入力することは、「書く」という作業と同じなので、対象生徒は困っていたのかもしれない。
- ・iPadアプリを使って学習活動をまとめたことや、発表することができたことは、対象生徒にとって達成感を味わうことができ、自主性を引き出すことができたのではないか。

○気づきに対するエビデンス

- ・対象生徒が伝えたいことを担任と入力することで、「書く」という作業に対する負担が軽くなり、思っていることを分かりやすく表現することができた。
- ・iPadアプリを使い活動の流れや内容を対象生徒と確認することができたので、次の課題に進みやすかった。
- ・発表する場面で、発表の仕方や姿勢をクラスメートから、ほめられたことで自尊心を高めることができた。

・エビデンス(具体的数値など)



※⑨生活の記録



※⑩生活の記録に記入している様子

毎朝登校してから記入する「生活の記録」を年度当初はなかなか書けなかったが、7月以降は50%~70%提出できるようになった。2月は100%の提出である(12日現在)。この記録は感想や考えを書くことではないが「書く」という作業であるので、対象生徒が嫌がらず取り組めたことで、クラスメートからほめられて自信となった。